

R2.11.11

頑張れ 氷川の花農家

氷川町は10日、新型コロナウイルスで需要が落ち込んでいた町内の花生産農家を支援する「花いっぱいプロジェクト」を始めた。町が花を買い取り、町内の公共施設や福祉施設などで飾ってもらう。

町が買い取り 公共施設に提供



町によると、町内では11戸がダリアやトルコギキョウ、マリーゴールドを栽培。花を大量に使う冠婚葬祭などの催事の縮小や中止が相次ぎ、価格が低迷していることで町がプロジェクトを企画した。

来年2月まで月2回実施。各施設担当者に町役場に来てもらい、1回当たり1施設に切り花100本を配る。現在、56施設が参加している。町の購入費672万円は、国の地方創生臨時交付金を活用する。

同町大野でトルコギキョウを栽培する宮村和正さん(57)は「コロナ禍で、花から野菜栽培に変更した農家もある。今後に不安を抱える中、支援は本当に心強い」と感謝。花を受け取った浄立寺保育園(同町鹿島)の保育士、青木優子さん(54)は「子どもたちは花摘みが好きで、植物に興味いっぱい。喜ぶと思います」と笑顔で車に運び込んでいた。(元村彩)

町役場に集められた色とりどりの花を受け取る施設関係者は「氷川町

島野先生に運んで飾って頂きました！



